

関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ ～地域で活動するコミュニティ～

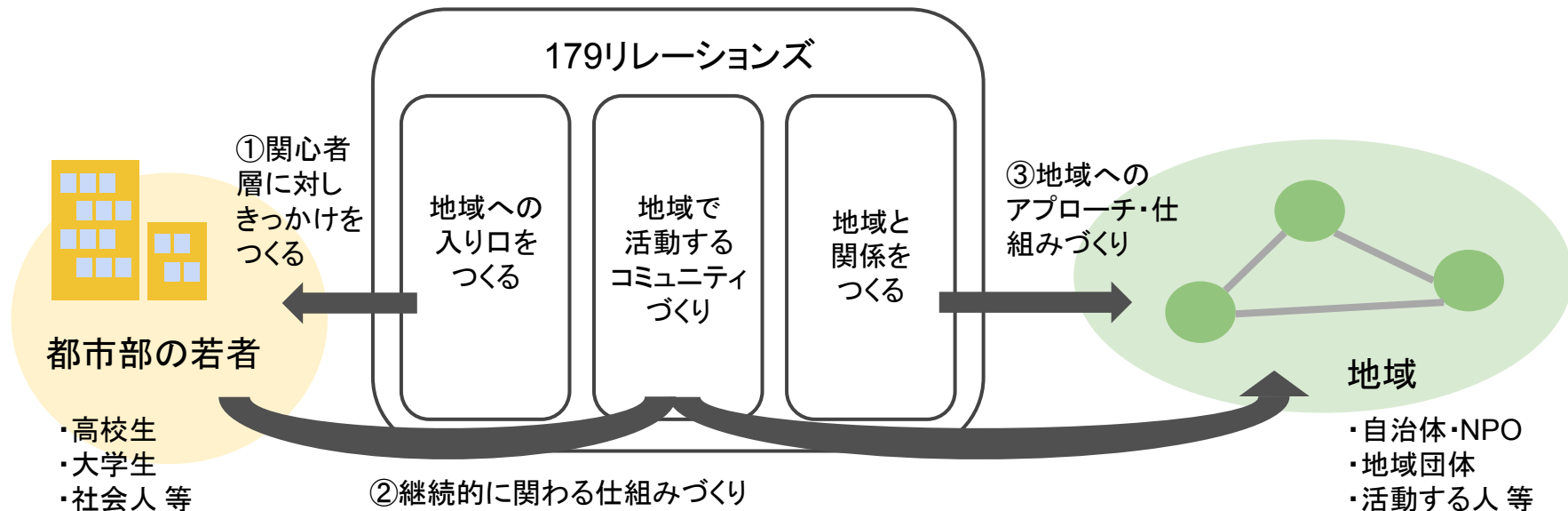


2022年度ezorock報告会

ZOO

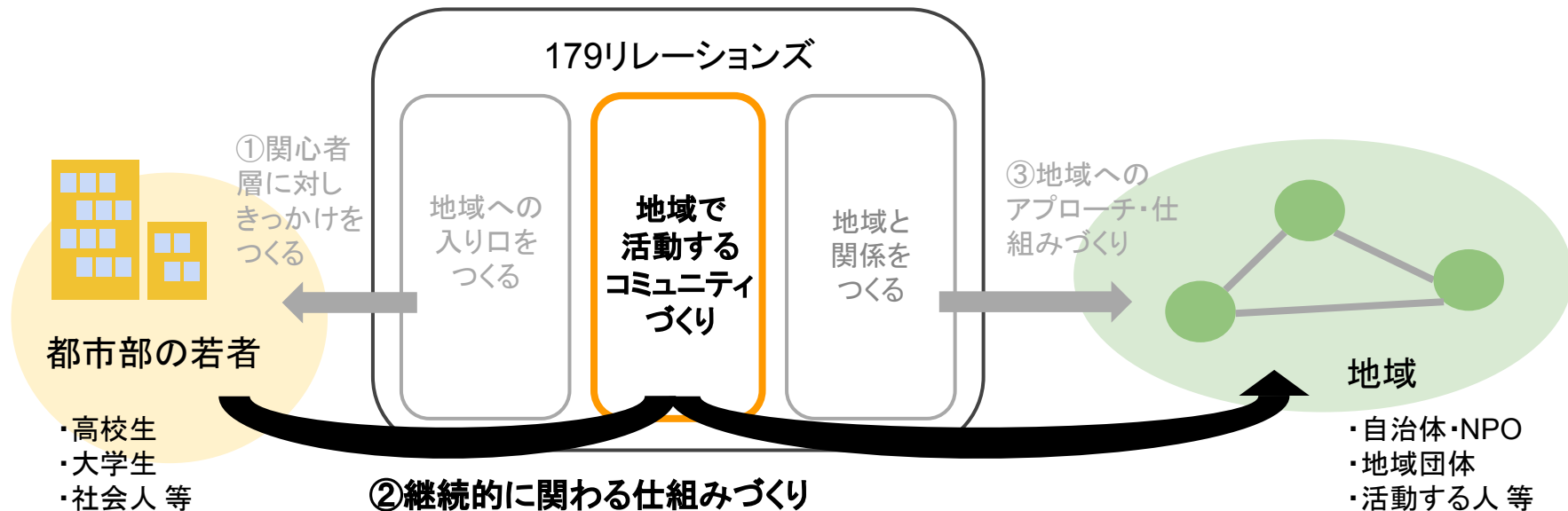
関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ

北海道内の各地域が持続的に維持されることを目指し、関係人口創出の仕組み(地域に関わる「入り口」)を構築することを目的に活動(2020.4～)



関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ

北海道内の各地域が持続的に維持されることを目指し、関係人口創出の仕組み(地域に関わる「入り口」)を構築することを目的に活動(2020.4～)



地域で活動するコミュニティ

大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト



切り口: 自然保護・管理
地域: 東川町
主なステークホルダー
NPO法人大雪山自然学校

森のようちえん



切り口: 子どもの自然体験
地域: 苫小牧市 等
主なステークホルダー
いぶり自然学校

鷹栖リレーションズ



切り口: まちづくり
地域: 鷹栖町
主なステークホルダー
鷹栖町役場

大雪山国立公園 旭岳自然保護プロジェクト



活動目的

自然保護や環境問題に関心を持った若者が、担い手不足が問題となっている自然保護の現場に実際に関わる入り口となる。

リレーションズとして旭岳の自然保護を切り口に北海道の自然環境の持続的な保全・利用の一助となる活動を展開し、北海道に主体的、継続的に関わる人を発掘、育成する。



巡回 **登山道整備** **レクチャー**

北海道最高峰の大自然で
環境保全の第一歩!!

大雪山国立公園旭岳 自然保護プロジェクト

2022年ボランティア募集中

旭岳自然保護監視員さんと共に
「利用者による環境保全」を目指して
ボランティア活動をしています。

日程	
第1回	6/18(土)～5/19(日)
第2回	7/9(土)～7/10(日)
第3回	7/16(土)～7/18(月祝)
第4回	8/11(木祝)～8/12(金)
第5回	8/20(土)～8/21(日)
第6回	9/17(土)～9/19(月祝)
第7回	10/1(土)～10/2(日)
第8回	10/8(土)～10/10(月祝)

- ・活動場所 大雪山国立公園旭岳(上川郡東川町)
- ・宿泊場所 NPO法人大雪山自然学校事務所
- ・受付団体 NPO法人大雪山自然学校
- ・申込条件 NPO法人ezorockの会員登録と団体説明会への参加が必要です。

※新型コロナウイルスの状況によって変更になる場合があります。
旭岳自然保護監視員プログラム事務局より、資料などお問い合わせください。

【お問い合わせ】
NPO法人ezorock 大雪山国立公園自然保護プロジェクト (担当: 水谷) E-mail: info@ezorock.org
WEB: <http://www.ezorock.org/>

お申込はこちら

今年度の活動内容+成果

2022年度の旭岳チーム

5月	大雪山国立公園 旭岳自然保護プロジェクト活動説明会
6月	第1回活動
7月	第2回活動
8月	第4回・5回活動
9月	第6回活動
10月	第8回活動
12月	旭岳2022同窓会

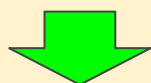
※第3回と第7回は中止

現地活動の流れ (22年度ver)

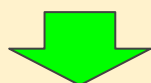
参加者申し込み



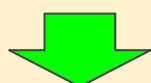
オープンチャット招待・顔合わせ日程集約 (2週間前までに)



顔合わせオンライン(活動説明・現地リーダーの決定等 /約1週間前)

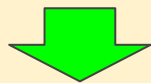


当日(場合によっては見送り、お迎え・備品受け渡し)



振り返り会日程集約

オープンチャットに活動報告(現地リーダー)



振り返り会オンライン{感想共有 & 記事作成の依頼編集部から}



記事作成

現地での主な活動例'22ver

散策路全体



ロープ張り・ロープ外し



散策路の巡回

外来種(アキタブキ・セイヨウタンポポ)防除



姿見の池園地 MAP



ロープウェイ
姿見駅



研究目的のササ狩り



観光客へのレクチャー

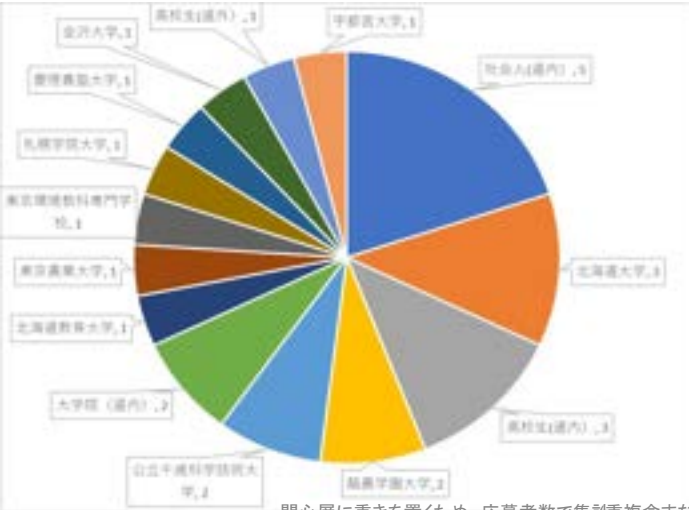
園地外の活動



湿地の植生回復・木道修復(下山道)など

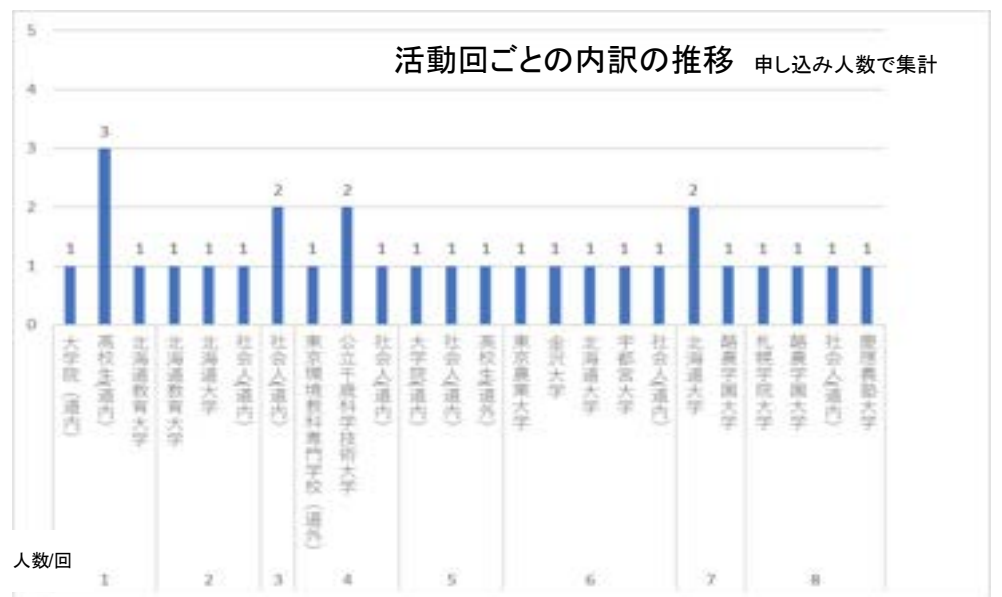
参加者情報

22年度短期参加者(内訳)



関心層に重きを置いたため、応募者数で集計重複含まない

活動回ごとの内訳の推移 申し込み人数で集計



人数回

21年度内訳(比較用)

集計方法同様



参加者の声の一例

観光客として感動するだけじゃなくて、監視員の取り組みとか山の課題について知ることができ、旭岳との距離が縮まった！

活動を通してでないと会うようなことがない人と交流できた

長期滞在

りお(高知高等専門学校)ひろと(酪農学園大学)

短期活動

募集人数 40人 / 実質募集人数(中止が発生したため) 30人

応募人数 29(のべ29人、実26人、リピーター3人)

実際の参加人数 25(のべ25人、実23人、リピーター2人)

まとめ(今年度の活動で顕著だった点、見えてきたもの等)

今年度はコロナウイルス緩和の影響からか、道外からの参加者も昨年度と比較して多かった。

また、今年度は特に活動に対しての顔合わせや振り返りなどコーディネートに力を入れた。参加者の感想や参加のきっかけを聞く中で、気軽に参加できる自然保護ボランティアとしての需要を見出すことができた。

来年度に向けて

この活動の希少性を見出しつつある一方で、参加者が集まり切らなかった回も発生してしまったことへの反省もある。

179リレーションズとして、自然保護分野での入り口として機能するために今後、広報から活動への巻き込みと
いうところに力を入れていきたい。

森のようちえんチーム

チームの概要や目的

子どもの自然体験活動は道内に複数あり、その地域の特色を活かした子どもと自然の関わりがある。その活動に継続的に関わることを目的に2021年度に発足した。

活動前の参加者同士の顔合わせ、また活動終了後の振り返り・共有を行うことで、参加者自身が活動を主体的に考えることができる仕組みをつくる。

179リレーションズとして

子どもの自然体験活動への参加から、地域に継続的に関わる人を創出。



今年度の活動内容+成果

「月に一度は森づくり」に参加(5~12月)

場所: 苫小牧市 苫東和みの森

参加人数: のべ20人

大人も子どもも森づくりや森遊びを楽しめる年間を通した木育イベント。

「何をしてもいい。何もしなくてもいい」という言葉大切に、大人も子どもも自由に過ごせる現場です。活動の中では、薪割りをしたり、子どもたちと一緒に遊んだり、安全に遊べるか見守ったりします。

年間を通じて、継続的に活動に参加することができました。



今年度の活動内容+成果

事前顔合わせの実施



活動当日を不安無く迎えられるように、活動参加者と受け入れ側の顔合わせをオンラインで行いました。

参加者は活動の概要や受け入れ先の方の想いを知ったうえで活動に参加できるように、また、受け入れ先にとっては参加者の参加動機を知って活動を行えるようにコアメンバーが中心となって進行していきました。

今年度の活動内容+成果



↑現地での振り返りの様子

振り返り会の実施

① 活動直後@現地

活動終了時に現地で簡単な振り返りを実施。
活動直後の率直な感想や発見を共有しました。

② 活動終了後@オンライン

活動日から1週間ほど経った時期に
参加者とコアメンバーがオンラインで集まり、
振り返り会を実施しました。

活動日から時間が経って気づいたことや疑問点を
時間をかけて共有、議論をしました。
森と人、人と人の関わりを話し合うことで、活動を日常
へ落とし込むことにも繋がられました。

今年度の活動内容+成果



勉強会の実施

目的

コアメンバーが森のようちえんに関わる色々な知識を伝え合うことで、学びを深めてより良い活動へ繋げていく。

概要

第1回【馬の世界をのぞいてみよう！】/6(月)実施

学生時代にホースセラピーを学んでいたコアメンバーによる、馬の勉強会。意外と知らない多様な馬の種類を紹介したり、馬の気持ちや人との関わりについて活動中の写真を見ながら考えました。

第2回【発達障害を持つ子どもって？】/13(月)実施

児童福祉の仕事をしているコアメンバーによる、子どもの勉強会。発達障害を持つ子どもたちから学んだことを共有し、今後の活動で出会うかもしれない特徴のある子どもの対応などを一緒に考える時間になりました。

第3回【木を見て森も見る】/20(月)実施

森林を学んでいるコアメンバーによる、森林の勉強会。木材の多様な使われ方から、森林の種類、林業のことなどを紹介し、森林の魅力に触れました。「いい森づくりとは??」を考える時間になりました。

今年度のチームのまとめと来年度への展望

まとめ(今年度の活動で顕著だった点、見えてきたもの等)

今年度は活動前の顔合わせ、活動後の振り返りに力を入れて取り組んできた。ボランティアの不安を取り除き、主体的に参加して貰うことが、現場にも自ずといい影響をもたらすと感じた。

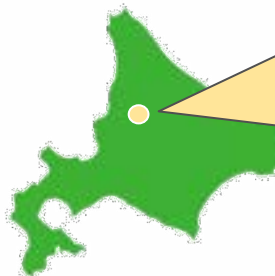
来年度に活かしたいこと、それを踏まえての今後の展望等

来年度も引き続き、ボランティアのコーディネートを軸に活動する。オンラインでの勉強会を継続し、来年度は現場に足を運び、活動に参加しながら学ぶ勉強会の実施も検討していきたい。

鷹栖リレーションズ



コアメンバー3名(くめちゃん、ひろと、あやね)



たかすちょう 鷹栖町

- 人口：約6700人
- 合言葉：「笑顔・幸せ・みんなであつくるあつたかす」
- 特産品：オオカミの桃(トマトジュース)、おいしいお米、鷹栖牛など
- アクセス(車)：旭川市約25分、札幌約120分



チームの概要

2022年度に発足したチーム。

主な活動内容は鷹栖町で行われる企画の参加を通して町民との交流や、鷹栖町と連携した企画の提案・作りこみを行っています。鷹栖町での繋がりを基に、主に都市部の若者や、ネットを通して、町の魅力を伝え、巻き込みを行っている。

目的

179リレーションズの中で特に地域に密着したチームのひとつとして、若者が継続的に地域に関わる仕組み・環境をつくる

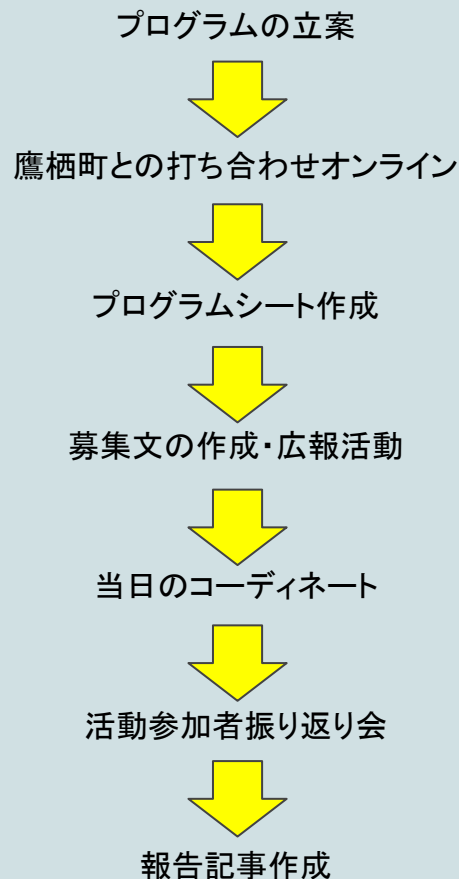


今年度の活動内容+成果

2022年 4月	179REPORT vol.3「鷹栖、行ってきました!」
	古民家再生DIYプログラム
7月	ドライブインシアタープログラム
9月	かまどづくりプログラム
10月	かまど新米炊き体験
2023年 3月	あったかす体験プログラム
	【これから】 ・活動紹介パンフレット作成中 ・ふらっとで活動紹介展示 ・179RELATIONS RADIO特別版 「たかすサークル×鷹栖リレーションズ」収録

参加人数(鷹栖町に足を運んだ人の実質人数)
11名 内リピーター5名

活動に際して主に行っていること



今年度の活動内容+成果

北成モデル地区会議 (ドライブインシアタープログラム)



まちlabo(まちづくり研究室) (かまどづくり、新米炊き体験プログラム)



今年度のチームのまとめと来年度への展望

まとめ(今年度の活動で顕著だった点、見えてきたもの等)

「鷹栖町が好き!」という気持ちひとつで始まったようなチームだったが、1年通して継続的な活動ができた。鷹栖町内で価値観を共有し、顔の見える関係をつくることができ、町民と鷹栖チームの双方で、企画・提案が行われる基盤が構築されてきました。

来年度に活かしたいこと、それを踏まえての今後の展望等

活動の企画・提案における土壌が生成されつつある中で継続的なかかわりを基に、より「あったかす」を感じてもらえるプログラムを提供していきたい。
また鷹栖町における関わりしろ、切り口を具体化していきたい。

179リレーションズのまとめ

地域で活動するコミュニティのまとめ

各チームで振り返り等を通じた活動参加者との関係づくりを丁寧に行った。活動へのリピーターや活動参加者がミーティングや勉強会に参加する機会も増え、継続的な関わりのきっかけをつくることができた。

179リレーションズのまとめ・展望

各チームで企画、運営等の活動の型がみえてきたことで、地域の入り口から継続的関わりまでの地域に関わる全体の流れが仕組み化されてきている。

特に、プロジェクト全体として取り組んだ「オンライン関係人口フェスティバル リレフェス」では、実行委員会で運営するイベントに自治体関係者が出展者や参加者として参加する動きも見られた。また、「関係人口」の先行事例が掲載される全国誌に掲載されるなど、北海道内において、関係人口を手法に人と人とのつながりを生み出すプロジェクトとして認知され始めているのではないかと感じている。

来年度はこの流れを確かなものとし、各チームが作り出す一連の流れから、地域への継続的な参加を促していきたい。